



「自転車で走ると、いろんなものが見えてきます」

彦根市エコ²(エコノミー&エコロジー)自転車とまちづくり委員会 竹内洋行^{ひろゆき}さん(西沼波町)

自転車は、環境にやさしい気軽な乗り物です。子どもや体力に自信のない人でも、意外に遠距離を歩くこともできます。しかも、ちょっと視線を左右に振るだけで、いろいろおもしろいものが見えてきて、飽きません。風を受けて走るのは、ほかにない気持ちよさがあります。

こんな自転車の特性を生かしてまちづくりをしようとして、彦根市エコ、自転車とまちづくり委員会」でいろんな検討をしています。3月24日には、より多くの人の意見を聞くために、「サイクリングとワークショップ」を開催しました。

周りが古い街並み、芹川沿いを参加者みんなが走りました。彦根のまちは、次々と見どころが現れて、自転車のスピードに合っています。終わった後の参加者の意見も、「城下町の名残のクラックの多いの道が面白い」「花しょうぶ通り商店街など、古い道の雰囲気が残っていてよかった」など、なかなかの評判でした。

竹内さん

左から2台目は「リカイベント」という型の自転車。寝そべて乗るので、風の抵抗を受けません▼



「ホームステイー お客様ではなく、家族の一員として」

伊藤洋子^{ようこ}さん(栄町二丁目)

ホームステイの受け入れに関心を持つようになったのです。

とはいえ、言葉も習慣も違う外国の方を自宅に迎えるのは初めてで、どうしても不安が先立ちます。そんな気持ちも強かったのですが、研修会で「ホームステイは、お客様として迎えるのではなく、『家族が一人増えるだけ』という気持ちで、いつもの生活のままでよいのです」というお話を聞いて、少し安心しました。

5月には、さつそくミシガン州の学生さんを受け入れる予定です。3泊のショートステイですが、どのような方が来られるのか楽しみにしています。



▲研修会のような様子



伊藤さん

3月23日、市民会館で「ホームステイバンク研修会」が開かれ、参加しました。「ホームステイバンク」という組織は、希望する人があらかじめ登録しておいて、先方の必要に応じて外国人のホームステイを受け入れる制度です。研修会では、ホームステイする側と受け入れる側、両方から経験に基づいたお話を聞くことができました。

数年前に、マレーシアから滋賀大に留学している人が、家族で近くにお住まいでした。近所づきあいをするうちに親しくなり、お国の習慣や家族制度など、いろいろと興味深いお話を聞くことができました。そのときに外国の方とふれあう楽しさを知り、